

今回の研究は、「ヤマ・カワ・ウミに生きる知恵と工夫ー岩手県閉伊川流域における在来知を活用した環境教育の実践ー」と題したテーマのもとに、岩手県の閉伊川流域を中心に調査・研究を進めてきたものです。東北地域をフィールドとして、小規模生産活動に関する在来知が、流域の環境保全に果たす役割を再評価し、大震災からの地域社会の復興に在来知がどのような役割を果たすのかを考察するとともに、それらの在来知を活用した環境教育の実施を通じて、長期的に持続可能な社会の構築に貢献しうる道を探ります。

まず、代表研究者である総合地球環境学研究所の羽生客員教授から研究の全体概要について説明いただいた後、各研究者から研究成果を発表していただきます。その後、ゲストの方々からコメントをいただき、最後に今回のテーマについて総合討論を行います。

このワークショップの開催が、在来知を活かした小規模生産活動の再評価を通じて環境負荷の少ない持続可能な社会をつくっていく取組みの一助となり、これからの環境・地域・社会の再生・保全に向けた活動を推進していく契機となることを強く願っています。

公益財団法人 日本生命財団
公益財団法人 ニッセイ 緑の財団
総合地球環境学研究所
「在来知と環境教育」研究会

■定員 300名

■申込〆切 12月12日(月)〆切
(申込先着順で定員になり次第〆切ります)

■参加料 無料

■申込方法

●参加ご希望の方は11月中旬以降弊財団のホームページ(URL <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp>)の参加申込画面より申し込んでいただくか、または、同封の申し込みハガキが市販のハガキに①参加証お届け先となる住所、氏名(大学、官庁、シンクタンク等)団体名・役職名 ②連絡先電話番号、電子メールアドレス、③①が自宅の場合は職業(所属団体名)をご記入のうえ、ニッセイ財団ワークショップ事務局までご送付ください。

●12月上旬より、お申し込みいただいたご本人あてに参加証をお送りいたします。ワークショップ当日は、参加証を受付にご提出ください。

■お申込・お問い合わせ先

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7

ニッセイ財団ワークショップ事務局

TEL(06)6204-4012

e-mail:kankyoku@nihonseimei-zaidan.or.jp

東京海洋大学越中島キャンパス所在地



交通案内
JR線京葉線・武蔵野線 越中島駅(各駅停車のみ)から徒歩約2分
地下鉄東西線・大江戸線 門前仲町駅から徒歩約10分
地下鉄有楽町線・大江戸線 月島駅から徒歩約10分

サクラマスがのぼる 川の在来知 ～岩手県閉伊川流域における 環境教育の実践～

日時:平成28年12月17日(土)
午後1時～午後5時

会場:東京海洋大学 越中島キャンパス
越中島会館
東京都江東区越中島2-1-6

主催 公益財団法人 日本生命財団
公益財団法人 ニッセイ 緑の財団
総合地球環境学研究所
「在来知と環境教育」研究会

共催 東京海洋大学水圏環境教育学研究室
後援 さんりくESD閉伊川大学校
閉伊川漁業協同組合
NPO法人 いわてマリンフィールド
一般社団法人 日本水圏環境教育研究会
毎日新聞社

開催に

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマに、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでに37回、累計で1,118件、助成総額26億9,200万円に達しています。

当財団は、これらの研究がさらに進展し研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてテーマに関心を持たれる方々の意見交換の場を提供するため「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で31回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、「人間活動と環境保全との調和に関する研究－環境保全・再生における都市と農山村の役割、流域を中心とする環境保全・再生、自然災害と環境保全－」を募集課題とする学際的総合研究に採択された研究チームから、その研究成果をご報告いただきます。

水は生態系全ての相互作用に関わっており、私たちの生活はもちろんのこと生命活動とは切り離せないものです。今回取り上げる「流域」は、森林から沿岸海域まで広い範囲に及びますが、上流から下流・沿岸海域にいたる様々な地域において、自然と人間活動の関係は多くの課題を有しています。流域における健全な水循環やそれに伴う生態系等の維持・保全を持続可能なものとしていくことが求められています。

プログラム

13:00	開会挨拶	ニッセイ財団 常務理事事務局長 伯井 穂文
13:10	研究プロジェクトの総括報告	総合地球環境学研究所・カリフォルニア大学バークレー校 羽生 淳子

第1部: 関伊川流域

13:30	「ハマの絵解き地図が持つ力－在来知を今につなぐ調査の試み－」	東京大学 福永 真弓
13:50	「川のサクラマスがつなぐ山と海 －子どもたちと一緒に考える科学知と在来知－」	東京海洋大学 佐々木 剛 さんりくESD関伊川大学校 水木 高志
14:10	「ヤマは宝だ －北上山地における食の多様性と保存・加工の知恵－」	総合地球環境学研究所 真貝 理香 羽生 淳子
14:30	「ヤマを生かす焼畑－生態学からみた土と森－」	横浜国立大学 金子 信博
14:50	休憩	

第2部: 比較研究

15:05	「ウルシを中心とした人と生態系 －岩手県浄法寺における生業の多様性と在来知－」	青森県庁 伊藤 由美子 羽生 淳子
15:25	「核被災と社会のレジリエンス －福島県内における小規模経済の新しい試み－」	福島大学 後藤 康夫 奥羽大学 後藤 宣代 羽生 淳子

第3部: コメント、総合討論

15:45	コメント	NPO法人いわてマリンフィールド 橋本 久夫 東北文化学園大学 岡 恵介 弘前大学 杉山 祐子 千里文化財団 小山 修三
16:25	総合討論・質疑応答	
17:00	閉会	

(敬称略)